



大樹のこころ

1チームの山の学習

5月17日(火)18日(水)の二日間にわたって、5年生の山の学習が行われました。ここ数年コロナ禍で活動を制限されてきた山の学習ですが、3年ぶりに宿泊を伴う活動となりました。

初日のお昼に行われたのが飯盒炊飯です。自然の中ですから、ガスレンジなどはありません。炉を作り火を起こすところから始めます。薪を割ることも初体験。恐る恐るナタを使い始めますが、子供たちはさすが。すぐに慣れて、次から次へと薪を割っていけるようになります。飯盒でご飯を炊くことも、カレー作りもきちんとできました。家庭科の授業で「練習」していた成果が、しっかりと出ていました。



夜には、最大のイベント「キャンプファイヤー」が行われました。ファイヤーの最初に「火の神が降臨して火を灯す」というセレモニーがあります。火の神がまじないをすると、不思議なことに井桁で自然発火が起きます。「マジック点火」という仕掛けなのですが、子供たちは大感激。こんな素直な反応をしてくれる子供たちがとても可愛らしい。ファイヤーでは、各クラスのスタンツや飛び入り参加の先生によるゲームもあり、大いに盛り上がりました。恒例の火舞いは、安全性を考慮してLEDライトを用いて行いました。しかし火文字については、本物の火を用います。闇夜に浮かび上がる学年のテーマである「1チーム」の火文字。子供たちは、改めてこの言葉を心に刻んでいきました。



2日目は落ち葉スキーとアスレチックを楽しみました。特に落ち葉スキーは大人気で、スタート地点で子供の背中を押す係の先生が、ハトハトになってしまうほどでした。



この2日間の山の学習は大成功であったと言えます。まず時間管理がきちんとできていました。通常ならば飯盒炊飯が上手にできなかったり、片付けの時間がオーバーしてしまうのですが、全て予定時間より早く行うことができました。また、子供たちの言動にメリハリがありました。話を聞く時には静かになり、楽しむ時には大いに笑い歌い拍手をする。見ていて、とても気持ちが良いものでした。このような子供たちの姿は、日頃の学校生活から育まれてきたものです。担任の先生方の指導の賜物です。子供たちと生活を共にする中で、彼らを「好き」になっていく自分に気がきました。これから大樹寺小での生活が、ますます楽しみになってきました。



素晴らしい山の学習にしてくれた子供たちと先生方、そして準備をくださった保護者の皆様に感謝です。ありがとうございました。楽しかったです。